

「学びの基本計画」(案)パブリックコメントによる意見募集 回答(一般)

No.	指摘事項	意見	回答
1	<p>ここまで積み上げられた内容は大変に素晴らしいと思いますが中川村らしさをあまり感じる事が出来ないのが残念です。ぜひ、具体的に村民みんなが関心を持てるような企画をするべきだと思います。知らないうちに学校が9年制になっていたなんて思う村民が居ないように。</p>	<p>根本的な事になるのですが、新しい学校をつくるにあたってオール中川で取り組む事が大切だと思います。しかし現状では一部の方々に偏って進められている雰囲気か否めないです。また検討委員会においてはあくまで新たな学校を作るためであって根本的に中川村の将来を見据えた検討にはなっていないようにも思えました。そこで計画内に国型のコミュニティスクール(学校運営協議会制度)の導入が検討されていると思いますが、まずは中川村コミュニティスクールを立ちあげて村全体(オール中川)で子ども達を育てる・学校を運営する機運を高めるべきではないでしょうか。ここまでの検討委員は当て職と言われるような方が多かつたようですが、立ち上げ・開発の段階では数だけではなく、その質や熱量がなければより良い物が出来るとは思えません。教育委員会を主軸として行政・住民が共に考える新たな学校創り委員会(なかがわコミュニティスクール)を立ちあげて進めて行ける事を提案いたします。もしここまで本当にオール中川で進められていたのなら新校舎の建設という大きなテーマが無駄になる事はなかったのではないと思えるからです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。本計画は多くの皆様からいただいたご意見をまとめたことで一般化したと思われます。これから具体的に取り組む中で、中川村らしさが見えてくると考えています。また、学校運営協議会の導入やそれに向けた協議体の設置等のご意見、具体的な取り組みはこれからになりますので参考にいたします。</p>
2		<p>◇学校運営委員会を早急に設置して欲しい 理由 ①多岐にわたる人を巻き込むには運営委員会の設置が必須 教育委員会だけで進めるのは荷が重すぎ</p> <p>②教育委員会の負担が大きすぎて、多方面のアプローチが進まない</p> <p>③座談会やパブコメをしても関心のある人しか声が上がらないが、実は聞いてみるというんな意見がある(指名されないと意見が言えない地域)</p> <p>◇子ども会議開催 学校の朝の時間に子ども会議を開いてもらう</p> <p>◇座談会(ディスカッションになるような座談会)の開催 説明型が多く当事者意識が上がりにくいのでディスカッション形式の説明会が良いのではないか?</p> <p>基本計画案の読み上げはスタートに立ってない(興味を持ってない)人には連絡事項になってしまうので、ディスカッションの内容を伝える方が面白い (ディスカッションの内容とは、興味のある人に意見を求めてそれについて答えると言うやりとりを伝えた方が伝わりやすい) 特にどんな意見を出したらいいかわからない、こんな意見出しちゃいけないんじゃないかと思う人も多い。</p> <p>◇ハードよりもソフト ソフト面は今からでも出来ることがある 西小学校の子が東小学校で過ごす(逆も) 一緒に出来る活動を義務教育学校を見据えた活動にして行なっていく</p> <p>まずは行動目標として今年に3回以上その機会を設ける</p> <p>そうした活動を保護者も含めて行うことでいろんな人を巻き込んで学校づくりができると思う</p> <p>教育長をはじめ教育委員会の方の耳を傾けてくれるこの環境はとても良く 本当に素晴らしい村です いつもありがとうございます</p> <p>オール中川で素敵な学校つくりましょうね!</p>	<p>ご意見ありがとうございます。ご意見のとおり、学校運営協議会の導入等仕組みづくりを進めることによって、様々な皆さんがより関わりやすくなっていくと考えています。内容についてはこれからの取り組みになりますので参考にさせていただきます。また、学校間の交流学習や共同学習を徐々に進めていく必要性についてもご意見いただきました。現在交流を始めていますが、本計画に基づいてさらに進めていきます。</p>

3	<p>充分にしっかりと教育に関して考えて頂けていることが伝わり、何も指摘することはございません。強いて言いますと、P16・P17の「ふるさと中川学」、P18・P19の「学校と地域をつなぐ仕組みづくり」に関して、学校との接点が無いような方々でもイメージしやすくなるよう、実際に地域の方に説明する際は、できるだけ専門用語を減らしたり具体例を盛り込むなどわかりやすい表現方法を工夫したほうが、より多くの人に伝わるのではと思いました。</p>	<p>先日行われた現状説明会はYouTube配信で拝見させていただきました。      その中で、強く印象に残ったことがあります。      それは「なぜ自己肯定感が低いとダメなのでしょう？」という子どもからの問いに対し、様々な立場の大人が多様な意見を伝えている姿でした。      まさにこのようなやりとりこそが、中川村の学校に必要なことなのではないでしょうか。      自ら疑問を持ち、様々な人からの意見を聞き、今の自分に必要なこと参考にすべき考え方などを判断する、そして行動に移す。      ”目指す子どもの姿”(自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓する力を育む)の第一歩が見られたように感じました。      新しい発見や新しいアイデアが、小さな疑問から生まれるように、世の中の常識や当たり前を過ぎ過ぎていて見過ごしていることに対して疑問を持つということが大切なんだろうと思います。同時に、そのような疑問が生じたときに教室で一人の先生に投げかけるだけでは考えの幅が広がりにくいと思うので、日常的に気軽に多様な大人に聞ける環境を作るといったことが大切なんだろうと思います。      それがまさに「ごちゃまぜに学ぶ」ということに繋がるのだと思うのですが、実際に地域の様々な人(一部の人だけに偏るのではなく)が学校に来たいと思う雰囲気を作るといのは中々ハードルが高いように感じています。      それ故、「どうしたら、学校に来たいと思う人、あるいは何か役割があり来ざるをえない人が増えるのか」ということに最も知恵を出し合うべきなのではと思っております。(※私もいち保護者として考えていきたいと思っております)      「ふるさと中川学」をより具体的なものにしていき、可能であれば新たな学校(義務教育学校)の開校を待たずして、できることから徐々に取り組みを進めて行けたら嬉しいです。</p> <p>校舎に関しては最低限安全が確保されていればよく、ピカピカの最先端の校舎などは全く求めておりません。それよりも中身(ソフト面)の方が大切だと思います。中身をアップデートさせるために必要な場所があれば追加したりリフォームしたり、それだけで充分だと思っております。財政面だけでなく、SDGsや循環型社会などといった観点からも、今ある校舎が使えるのであれば積極的に利用すべきだと思います。      ちなみにこじつけになってしまうかもしれませんが、学校の授業で、校舎を全て新築で立て直すのと、リフォームするのとで、どれだけ環境負荷に差が出るのかななどを勉強しながら学校づくりを考えるなどということもできたら面白いかもしれないですね。</p> <p>それと、ソフト面に関してもう一点、新しい学校の教育方針を実現するには、現場で働く先生、特に先生方を引っ張る立場の校長先生の選任はとても重要だと思います。      説明会でも話にあがっていましたが、学校作りに関心があり積極的に携わっている先生が開校する頃には誰一人いないという状況では悲しいなと思います。県費教職員から選任することが難しいようでしたら、村費教職員で校長先生、または校長先生と共に学校運営を引っ張る新たな役職を設けるなど検討をお願いしたいと思います。財政に関して口を出すつもりはございませんが、どちらかというと人材確保やソフト面の充実に財源を充てていただけると嬉しいなという気持ちです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。「ふるさと中川学」(仮称)の創設や学校運営協議会の導入等を通して具体化していきたいと考えています。ご協力をお願いします。また、校舎については、教室数が足りない部分は増築したり、既存校舎も必要に応じたリフォームをする中で新しい学校を開校していければと考えています。      人材確保やソフト面の充実については、大事なご意見として参考にいたします。</p>
4	11ページ12年間の教育課程の検討について	<p>学校運営協議会が取り組むとの表記があるが、こども施策を横断的に取り組む観点から、子ども家庭センターも関わりをもって施策を推進していったほうがよいのではないかと。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。構成についてはこれからの検討になります。ご意見として参考にいたします。</p>
5	19ページ学校運営協議会	<p>オール中川で取り組む意思があるのであれば、「学校・保護者・地域・行政・専門家」ではなく、もう少し具体的なほうがよいのではないかと。案として、子ども家庭センター・商工会・各地区などの組織との連携が必要となると考えるのがいかがですか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後、具体化していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。</p>
6	18・19ページ、学校運営協議会・地域の関わりについて	<p>学校運営協議会に関わる、有志の地域住民の熱意を継続的なものとして「仕組み化」しなければ、形式だけの魂のこもっていない学校になってしまいます。学校運営協議会の在り方、特に地域住民の熱意を継続的にするための仕組みを、図の中に表現する必要があると思いますが、いかがでしょうか？</p>	<p>ご意見ありがとうございます。具体的な活動の中で、関わる皆さんが熱意を持って参加していただけるよう進めていきたいと考えています。</p>
7		<p>学校運営に、子ども自身や地域住民も参画できるような仕組みづくりをはじめしてほしい。この学校統合が、地域と住民と子どもと保護者と教職員が一緒にチームになって取り組むことのできるチャンスだと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。学校運営協議会の導入についてはこれから具体的に取り組んでいきますが、子ども達や地域の皆さんも参画する仕組みにするよう考えています。</p>

8	<p>3ページの図表3「学級編制基準35人」「複式学級の水準(2学年で16人以下)」 12ページの(2)学校の規模から 令和13年度の児童生徒数を見ると小1(21人)、小2(21人)、小3(34人)、小4(23人)、小5(30人)、小6(38人)と ほぼ単級になる人数ではあるが 広く学びという観点からは「学年で分ける」ことのメリットはあまりないのではないかと 学校という狭い世界の中で、さらに学年という狭い枠を当てはめる必要はないと思う。 今の社会状況、現代の子どもたちに合った学びのスタイルを中川村独自にはじめていけたらよい と思う。</p>	<p>複式学級のようなグループ学習や、全学年学年の枠を取り払って異学年とともに学ぶ機会が多く あるとよい。学年という狭い人間関係、固定された人間関係の中での良い面もあるが、広い視野を もつ・異学年の中で学ぶことのよさもおおいにあると思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。児童生徒数が減少し単級になることによる人間関係の固 定化等を心配するご意見がこれまでの検討でも出されています。そうしたことから、「同 学年、異学年、地域の皆さん等、多様な学習グループで学べる体制や学校施設・設備 を整えます」と本計画で位置づけています。</p>
9	<p>基本計画14ページ・概要版・こども版の目指すこどもの姿・の記述について。</p>	<p>「自ら考え判断し行動して、人生を開拓する力を育む」というのが、わかりにくい。特に子どもたちに イメージが難しいと感じる。内容は悪くないと思うが、より心に届くメッセージに練り上げてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。子ども達とも対話する機会を持って深めていこうと考えて います。</p>
10	<p>14ページコンセプト、もしくは全体</p>	<p>総合計画、後記基本計画の分野横断施策1「こどもの健やかな成長のための環境づくり」の(2)学 童期の学びや体験の提供を通じた社会参画の推進や活躍機会の創出の中に、『子どもが権利主 体であること意識醸成、意見表明の場づくり』とあるが、この『子どもが権利主体』ということが、 基本計画案の中に入っていないのではないかとと思うがどうか？  日本が批准した「こどもの権利条約」に準ずる、子どもを取り巻く環境づくりを行うことは、時代の流 れで当然であるとする。そのような観点から、本計画中にしっかりと明記するべきと考える。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。プロジェクトでは村民の皆さん、そして子ども達が検討に 参加できる機会を大切にしてきました。実際に積み重ねてきた事実を追加記載すること で大事にしている立場を示したいと思えます。</p>
11	<p>全体</p>	<p>「オール中川」の定義を、より具体的に明記するべきではないでしょうか。雑駁でよくわからない。イ メージする人によって、「オール中川」の対象が変化してしまう恐れがあると思います。呼称を変更 する必要は無いと思うが、注釈などで説明するべきではないでしょうか。例えば、※オール中川＝ 地域住民・教委・行政・民間業者・地区等</p>	<p>ご意見ありがとうございます。「オール中川」は、「中川村関係者全体が立場を越え一体 となって取り組む姿勢」を意味しているのご理解ください。</p>
12	<p>オールなかがわってどういう意味？と息子が言っております。 みんなで作る学校のことだよと教えたのですが、新しい学校がオールなかがわになるのではなく、 今からみんなで作りあげる学校にするためには、やはり学校運営協議会を立ち上げるのが一番い いと思います。保護者会やPTAから生の声を集めること、地域住民から生の声をあげてもらうこ と、それは教育委員会ではやりきれないので、出来るだけ早い段階で学校運営協議会という形に 持って行く必要があると感じます。このパブコメでどのくらいの人に興味を持って意見をしたか分 りませんがこれからいろんなことを決定して行く時期になってきているのに、住民の意識が低いよ うに感じます(実際にはうーんと意識が高まっているとしたら嬉しい誤算ですが) そこをどうにか解決していきたいです。</p>		<p>ご意見ありがとうございます。「オール中川」とは、「中川村関係者全体が立場を越え一 体となって取り組む姿勢」を意味しています。ご意見のとおり、実現していくためには学 校運営協議会の導入等が有効だと考えています。ご協力をお願いします。</p>
13		<p>概ね学びの基本計画には概ね賛成です。ただ、この基本計画実施にあたり8,9年生の発展期は高 校へのスライドの時期ですので、いろいろな意味で考慮いただきたいと思えます。中川村の小学 校から中学へ上がる際、近年、不登校が増えています。個人的に感じるのは小学校と中学校の違 い過ぎるギャップと、東と西が一緒になることでの違和感(特に人数の少ない東が苦勞します)が 原因となっているのではないかとということです。こうして不登校となってしまった子も、高校で心機 一転再起を図ることができる子もいます。統合により小学校から中学校へのギャップが緩和される ことは良いことに思いますが、8,9年生で外でもやっていける強さが育まれないと、現在中学で起きて いる問題が高校で起きてしまい、そこからでは大学で再起を図るのは非常に難しいことです。その 為、本当に「人生を開拓する力」をつけることは非常に重要であり、同時に難しいと思えますので、 令和13年から突然取り組むのではなく、今からでも取り組んで欲しいと思えます。  また、教育方針があってもそれを支える良い指導者無くしては机上の空論となってしまいます。何 とかやる気のある良い先生を集め、長く居ていただけると良いと思えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。義務教育学校として9年間の切れ目ない学びになること、 また、学年を「4・3・2制」にして、子どもの発達に応じた教育課程を編成すること等 によって、目指す子どもの姿を実現していきたいと考えています。今後、学校と教育課程 の検討を進めていきますので、できることから実践を始めたいと考えていきま す。</p>
14		<p>中川村全村が学びの場になることは良いことだと思います。 娘が児童クラブの先生をやっていた時に子どもたちにどんちゃん祭という素晴らしいお祭りあるか ら見に来てと誘われたと言って見に行きましたが、そのように村外の人にここは紹介できるとい うものをより多く知ることになると思うからです。 同時に村外の事も学び中川村は他市町村と比べここは素晴らしい。ここはこうしたらもっと良くなる かもという意見が子どもたちから出てくると面白いと思えます。  児童、生徒数の減少により12年間同じお友達(保育園もいれると)と過ごすことになり苦しくなっ てしまふ学校に行けない子たちも取り残されない学びの場が学校に出来る事を願います。  フリーラーニングについて、講師代?見守り代?が払われているのですが、ボランティアでいったの にお金はいいのに・講師で行ったのに見守りだけだったと言う声もあります。 中川村には、いろいろな面白い講師になりそうな人たちも多いので講師の登録制度があればと思 います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。児童生徒数が減少し単級になることによる人間関係の固 定化等を心配するご意見は、これまでの検討でも出されています。そうしたことから、 「同学年、異学年、地域の皆さん等、多様な学習グループで学べる体制や学校施設・設 備を整えます」と本計画で位置づけました。子ども達が見せる姿は多様です。学校がそ して中川村全体が「みんなの学校」になるよう取り組んでいきたいと考えています。ま た、中川中学校の「フリーラーニング」については、どのようなやり方が有効なのか実践 的に研究しているところですので、ぜひご参加いただきご意見をいただければありがた いです。</p>

15	<p>①「自己肯定感」をどう扱うかについて(関連: 5～6ページ) ②包括的性教育の充実について</p>	<p>①には全くの私見を、②には学びの基本計画というよりは個別具体の学習内容についての要望を書かせていただきました。 今回のパブリックコメントの趣旨と違うものになっているかもしれませんので、その場合は以下読み飛ばしてください。お手数をおかけしてすみません。</p> <p>①「自己肯定感」をどう扱うかについて 「図表7 全国学力・学習状況調査の結果」によれば、生徒の自己肯定感の高低を測るべく「自分にはよいところがあると思うか」という質問が設けられています。 この設問に対して「当てはまる」と答えた生徒の少なさから、「中川村の児童の自己肯定感低い」と結論付けられたのだと存じます。</p> <p>しかし、こうした自己肯定感の扱いには、個人的に若干の違和感があります。</p> <p>調査で定義されている自己肯定感とは「自分にはよいところがあると思う」ことです。 つまりこの場合、自分によりよいところがあると思えなければ、自分自身を肯定することができないのです。</p> <p>私の考える自己肯定感とは「自分にはよいところがないが、それでもいい」です。人によってそれぞれ能力が異なるのは自然であり、得意なことや不得意なことがあるのは当然のことです。加えて昨今はSNSの発達により、世界中の優れた人と自身を比べる機会に満ちています。だからこそ、自分が大事な存在であるのに理由などいらぬということ、子どもたちと一緒に考える必要があると思います。</p> <p>「人と比べて自分にはよいところがないが、それはそれで自分を嫌いではない」と思えることは、よりマシに人生を送るための一助になると思います。 今回新たにできる学校では、こうした考え方もあるのだということを知ってもらえるような学習方針や機会が設けられたら嬉しいと考えています。</p> <p>②包括的性教育の充実について はどめ規定にて「取り扱わない」とされている項目も含めて、包括的性教育を充実させることが大事ではないかと考えています。 ヒトの体を科学的に知り、また他人の意思を尊重するすべを学ぶことは、自分も相手も大事にできる人になるために重要なプロセスだと考えています。 インターネットの発達した現代、正しくない情報には誰でも簡単にアクセスできます。だからこそ正しい知識を学校で早めに教えることが大事だと考えています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。自己肯定感については、パブリックコメント事前説明会(3回目)で、「なぜ自己肯定感が低いとダメなのでしょう？」という子どもからの問いがありました。それに対して参加者から様々な考えが伝えられ、子どもと大人が平場で意見を交わし合うことのよさや、ひとつの言葉に対して様々な考えがあるということを改めて知る機会となりました。ご意見のとおり、「こうあるべき」ではなく、多くの人たちと交わり違いを学び合って自分の考えを持つ、そんな学びを大事にしていきたいと考えています。 個別の学習内容に関わるご意見については、これからの参考にいたします。</p>
16	<p>拝読させて頂きましたが、PTAのことについては記述が見当たりませんでした。 今全国の多くの学校でPTAについて見直しがされています。中川村も例にもれなく議論、検討をしていくべき課題だと考えます。</p>	<p>新しい学校づくりにあたり、PTAのあり方についても見直しを検討していただきたいと思います。 現在の学校では、PTAへの加入が実質的に全員参加となり、入会の意思に関わらず加入し、役員も順番で回ってくる仕組みになっています。しかし、実際には多くの保護者が負担を感じながら引き受けているのが現状だと思います。 また、不登校のお子さんを持つ家庭や、ひとり親家庭であっても同様に役員が回ってくることもあり、状況によっては大きな負担になっている場合もあります。 さらに、少子化が進み、1学年10～20人程度の規模であることを考えると、現在のように多くの役員を必要とする仕組みが本当に適切なのか、見直しの余地があるのではないかと感じます。 PTA活動自体を否定するものではありませんが、参加を希望する保護者が中心となる形や、役員数や活動内容を実情に合わせて簡素化するなど、より無理のない仕組みを検討していただければと思います。 新しい学校が、子どもだけでなく保護者にとっても負担の少ない、持続可能な形で運営されることを願っています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。PTA活動については、PTAの皆さんが主体となって検討を始めています。いただいたご意見は共有いたします。</p>

17	<p>指摘事項1 該当箇所: 14ページ「図表17 新たな学校のコンセプト」、15ページ「(3)新たな学校の教育の考え方」</p> <p>「子どもを真ん中に」「自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓する力を育む」といった理念には強く賛同します。</p> <p>一方で、現行の記述ではこの「子ども中心」が主として学校内部の教育方法として語られており、学校外での多様な学びや、不登校など学校との距離が生まれている子どもへの位置づけが明確ではありません。</p> <p>現在、不登校の子どもは全国的に増加しており、文部科学省も不登校支援において「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、社会的自立を目指すことを基本的な考え方としています。また、フリースクール等の民間施設における学びについても、一定の条件のもとで出席扱いとする制度が示されています。</p> <p>このような状況を踏まえ、本計画においても</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外の学びの尊重</li> <li>・フリースクールや居場所など地域の学びの場との連携</li> <li>・学校に通いにくい子どもへの学びの保障</li> </ul> <p>といった内容を明記する必要があると考えます。</p>	<p>中川村の新たな学校(義務教育学校)学びの基本計画(案)について、地域で子どもの居場所づくりや多様な学びの場づくりに関わってきた立場、また不登校当事者としての経験を持つ立場から意見を述べます。</p> <p>今回の計画案には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを真ん中に</li> <li>・みんなの学校</li> <li>・オール中川</li> <li>・学校だけでは成り立たない</li> </ul> <p>といった重要な理念が掲げられており、この方向性には強く賛同します。</p> <p>中川村の規模だからこそ、全国でも先進的な教育の形をつくることのできる可能性があると感じています。</p> <p>現在、不登校の子どもは全国的に増加しており、学校に通うことが難しい子どももいます。文部科学省も、不登校支援において「学校に登校する」という結果のみを目標にしないことを示しています。</p> <p>つまりこれからの教育は、学校に来られる子どもだけを前提とするものではなく、学校との距離がある子どもも含めて学びを支える仕組みが必要です。</p> <p>そのためには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースクール</li> <li>・地域の居場所</li> <li>・民間の学びの場</li> <li>・オンライン学習</li> <li>・地域活動</li> </ul> <p>などを含めた多様な学びのネットワークを地域の教育の中に位置づけることが重要だと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。地域で子どもの居場所づくりや多様な学びの場づくりに関わってこられた立場、また不登校当事者としての経験を持つ立場からご意見をいただきました。学校はすべての子どもにとって居場所になってほしいとの願いから、新たな学校のあり方について検討を重ねてきました。目指す子どもの姿やそれを実現するための3つの教育の柱等示していますが、多様な子ども達のあり方については「ごちゃ混ぜに学ぶ」に、村全体を学びの場とするということについては「みんなの学校」に位置づけています。いただいたご意見は、本計画を具現化していく姿として参考にいたします。</p>
18	<p>指摘事項2 該当箇所: 17～18ページ「ふるさと中川学(仮称)」</p> <p>本計画では「村全体を学びの場としてグローバルに学ぶ」とされており、この方向性には大きく賛同します。</p> <p>しかし現状の表現では依然として「学校を中心に地域が支える」という構図が強く見えます。</p> <p>これからの教育は</p> <p>学校 → 地域</p> <p>という関係ではなく、</p> <p>学校+地域+多様な学びの場</p> <p>が対等に連携する形で構成されることが重要です。</p> <p>コミュニティ・スクールの仕組みを活かしながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動</li> <li>・民間教育施設</li> <li>・居場所</li> <li>・企業や農業</li> <li>・文化活動</li> </ul> <p>などを含めた</p> <p>「地域丸ごと学校」</p> <p>という発想を明確に位置づけることを提案します。</p>	<p>私自身は中川村で「大きな玄関」という拠点を運営し、子どもや若者の居場所やフリースクール的な活動を行っています。その実践の中で感じているのは、学びは必ずしも教室の中だけで起きるものではないということです。</p> <p>食べること、遊ぶこと、対話すること、地域の大人と出会うこと、役割を持つこと。そうした日常の中でも子どもは学び、成長していきます。</p> <p>フリースクールや居場所は学校の代わりというより、子どもが自分のペースで社会とつながり直し、学びを取り戻していくための重要な場になっています。</p> <p>その意味で、新しい学校は、学校だけで完結する教育ではなく、地域にある多様な学びの場とつながる教育を目指してほしいと思います。</p> <p>また、この計画の中心には「こどもの権利」を据えるべきだと考えます。</p> <p>子どもの権利条約やこども基本法では、子どもの意見表明の権利が保障されています。</p> <p>子どもは「大人が決めた学校に参加する存在」ではなく、学校と一緒に作る主体です。</p> <p>そのため学校の意思決定の仕組みとして</p> <p>三者協議会(教員・生徒・保護者)</p> <p>を設けることを提案します。</p> <p>さらに必要に応じて</p> <p>四者協議会(教員・生徒・保護者・地域)</p> <p>とし、地域の大人や地域の学びの場が加わることで、学校だけでは解決が難しい課題にも柔軟に対応できるようになります。</p> <p>ここで最も重要なのは、子どもが「議題の対象」ではなく、協議の主体として参加することです。</p> <p>中川村の新しい学校が、学校に来ている子どもだけでなく、学校に来ていない子どもも含めて、すべての子どもの学びと成長を支える学校となることを期待しています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。「ふるさと中川学(仮称)」については、学校の教育課程として検討してきており、「関係者が連携・協働して『オール中川』で取り組む学習」と位置づけています。この中の「協働」は、対等な立場で同じ目的に向かって協力し合う関係を意味し、「オール中川」は、関係者全体が立場を乗り越え一体となって取り組むことを意味しています。いただいたご意見は本計画と重なりと受け止めました。いただいたご意見は本計画を具現化していく姿として参考にいたします。</p>

19	<p>指摘事項3 該当箇所: 19ページ「地域と学校をつなぐ仕組み」、図表21</p> <p>計画では「子ども達の参画についても実現できるよう取り組みます」と書かれていますが、これを理念にとどめず、制度として保障する必要があります。 そのため、学校の意思決定や教育のあり方を話し合う場として三者協議会(教員・生徒・保護者)を基本的な仕組みとして位置づけることを提案します。 三者協議会は ・教員 ・生徒(子ども本人) ・保護者 が対等な立場で参加する場であり、学校生活や学び方、学校運営などについて子ども自身の意見を反映する仕組みです。 さらに必要に応じて四者協議会(教員・生徒・保護者・地域)とし、 ・地域の大人 ・地域の学びの場 ・民間施設 ・コミュニティ関係者 などが参加することで、学校だけでは解決が難しい課題にも柔軟に対応できるようになります。 ここで最も重要なのは、子どもが「議題の対象」ではなく、協議の主体として参加することです。</p>		<p>ご意見ありがとうございます。図表21については基本となる仕組みを示しています。中川村としてどのような仕組みにしていけるかはこれから検討していきますので参考にいたします。</p>
20	<p>指摘事項4 該当箇所: 計画全体</p> <p>本計画は2030年前後の学校を見据えた構想であるため、現在議論が始まっている次期学習指導要領改訂との接続も意識しておく必要があります。 次期学習指導要領の議論では ・個別最適な学び ・協働的な学び ・探究的な学び ・子どもの意見の反映 などが重視されており、学校のあり方そのものが大きく変わろうとしています。</p>		<p>・ご意見ありがとうございます。中央教育審議会での検討をまとめた「論点整理」を見ると、その考え方は本計画の考え方と重なるところが多いと感じています。次期学習指導要領は令和12年度(2030年度)から小学校を皮切りに順次全面实施される見込みです。プロジェクトの進行と重なりますので内容を確認しつつ組み入れていこうと考えています。</p>